阿吽阿

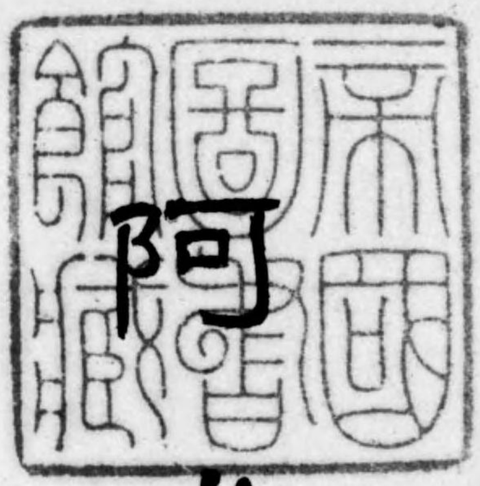
67
437

67-437
1200501281637

始

阿毗阿

67
437



阿吽

阿

冨田義俊次郎

冨岡清行氏
寄贈本

67-437

阿吽阿　第一

智　無窮に彌り自由活動する唯一御存在。

自由は絶對御存在の御特性、御活動の所以に御存在す。

智　時空を様とする御存在。

活動は時間を充實す、時間を充實することは存在、空間は活動の様式。

智　有無を超越する御存在。

時間は無始無終、空間は無邊無涯、無始無終無邊無涯は畢竟無。

智 **御自愛御自處** の **妙動** に因りて部分界一切萬有化成し、種々相現象し、種々境發展す。乃ち部分界萬有は因果の御則に順ひて化易推移し、**御慈悲** と崇め奉る **愛** の **御引導** に隨ひて進展向上する所の **根本智妙動** の連鎖なり。故に萬有は此の中和

統齊の **御道御愛** と **御因果則** の **妙** に因りて推移進展向上して遂に **根本智** に契合完全す。

智 個性不二。部分界の箇々は極微も其構成も悉皆智性卽ち **智**。是を以て箇々は必然活動す。箇々は箇々に必要の箇々欲、箇々機能を稟有す。箇々欲、箇々機能を賦けたる箇々は智性たると與に個性。

箇々欲允に中和を得て智性明らかなる個性は卽ち 全

一の部分的顯現。

智性は　**根本智**　を自覺し靈界に感應し箇々機能と協作用して對象を認識す。

南無阿吽南無阿吽南無阿吽阿。

俊拜記

第二　禮讃謝

豁然として圓滿歡喜し敬て白す。

南無阿吽阿　御引導　に順ひ奉る靈界現象界悉皆俊と俱に謹で

無窮に彌り有無を超越する唯一御存在　を禮拜し奉る。

御愛　を以て部分界を導き給ひ、**御因果則**　を以て齊

へ給ふ中和統齊の　**御道**　を讃美し奉る。

萬有個性を化成推移進展向上せしめ遂に

阿吽阿　に合ひ奉りて永久平和幸福を享け得さしめ給ふ

御慈慈　を感謝し奉る。

南無阿吽南無阿吽南無阿吽阿。

俊

祈禱　第三

敬て白す

南無阿吽阿　謹で　**御靈**　を禮拜し奉り　**御道**　を

讃美し奉り　**御慈悲**　を感謝し奉る。

願はくは　**御慈悲**　に賴り奉る靈界現象界悉皆平和に

進展向上し遂に　**阿吽阿**　に合ひ奉り永久平和幸福

を享け奉るべく導き給へ。

願はくは萬有個性箇々欲に耽り偏見我執し邪道に迷ふときは速かに悛めて智性明らかに一切思案行爲中和統齊の **御道** に準由し奉るべく導き給へ。

願はくは俊と同行の朋堪忍、仁愛、禮義廉恥、自律自助、禮讃謝生活なる人道を實踐躬行し偏見我執を捨離して清淨活動し智性明らかに **覺** を成就して **阿吽阿** に合ひ奉るべく導き給へ。

南無阿吽南無阿吽南無阿吽阿。

俊

皇室祖國　第四

天祖天照大神　を尊崇禮拜し奉る。

今上陛下聖壽長久皇室御繁榮を祈り奉る。謹で天壤無窮の寶祚を奉戴し一君億兆和輯一家の如き御國體祖國を衞る。

南無阿吽南無阿吽阿。

俊

祖先考妣　第五

吾が家御先祖累代御尊靈考妣御尊靈を禮拜し奉る。

御尊靈　阿吽阿　に合ひ奉り永久平和幸福を享け給はむことを祈り奉る。

南無阿吽南無阿吽南無阿吽阿。

俊

子孫　第六

南無阿吽阿　願はくは吾が子孫末流を心身健全に偏見我執を捨離し中和統齊の **御道** を體得して清淨活動し、智性明らかに **覺** を成就して **阿吽阿** に合ひ奉り永久平和幸福を享け奉るべく導き給へ。

南無阿吽南無阿吽南無阿吽阿。

俊

體認　第七

阿吽阿　言語文字を用ては如何様に爲すとも表章すること能はざる **絶對靈格**

智、妙、覺、 の謂。

尚ほ一切音聲は阿吽の外に出でざるが如く悉皆個性の最勝敬虔なる容儀、思惟、音聲を阿吽の二音を以て表章して無窮に彌る有無を超越する唯一 **御存在** を禮

拜し奉り、

御愛 を以て部分界を導き **御因果則** を以て齊へ給ふ中和統齊の **御道** を讃美し奉り、

萬有個性を化成推移進展向上せしめ遂に **阿吽阿** に合ひ奉りて永久平和幸福を享け得さしめ給ふ **御慈悲** を感謝し奉る所の禮讃謝辭として其れを環の窮り無きが如く繰返す意。

南無 歸命頂禮。

數珠 禮讃謝祈禱に合掌して數珠を擦るは個性の交會卽全一活動、部分界一貫聯絡卽 **全一** を象徴す。

靈界 智性の境遇。

境界 個性念々の境遇。

禮讃謝 感謝して謹で不斷の御引導に順ひ奉るを以て禮讃謝の簡要とす。

祈禱　阿吽阿の　御愛　は普遍恒常なれば個性は其祈る事を專念して只管　**御愛**　の力に賴り奉れば感應卽時著明すべし、則ち祈禱は　**御愛**　を一向信賴するにあり。

正直　夫れ人無私の境に在りては必らず自己の爲め他の爲めにする或動作を樂むものなり、自己の爲めの動作も亦必らず間接に他を利益すべき筈のものなり。

斯の自然意志を其儘正しく直く順行することが卽人道の發端なり。

人道　堪忍、仁愛、禮義廉恥、自律自助、禮讃謝、忠信孝悌、は凡そ中和統齊の　**御道**　に由る人界眷屬の常に履む道なり。

所謂正義も亦斷へず變易して止むことなき世故に善く時中活用する所の中和の　**御道**　の謂なり、苟も拘

泥する所ありて遠き慮りも無く偏に理窟を主張するこ
とは中和統齊の　**御道**　に悖りて其弊害の及ぶ所測
るべからざるものあり愼まざるべからず。
祖國を衛り祖先を崇め子孫の正覺を祈るは皆な是れ中和
の　**御道**　に叶ふ人界の道なり。
斯の人道を體得する人を人格者とは敬稱するなり。
御國體　抑も我が萬世不易の御國體は天祖皇祖の御神慮

に基き萬世に彌り一君億兆一家族に異ならず、君は四
海を家とし萬民を子と慈視して其福祉を專ら軫念し給
ひ、民は君を父母と同視し皇室を宗家として親み、尊
び、畏みて常に寶祚の隆天壤無窮を奉祝す。
謹で國史を按ずるに歷代の君民其情父子の如くにして未
だ曾て一日たりとも乖離せる事なし、君は統治の大權
を總攬して下億兆の心を御心として統御し給ひ、下億

兆臣民は咸な一心之れを輔翼し奉りて齊しく其仁澤に浴す。是れ御國體の宇内に比無き所以にして寶祚の隆天壤と窮り無き副因亦茲に在りと拜察し奉る。今や明治天皇は欽定憲法を以て國務大臣大政補弼の責に任ずる制度を定め給ひしを以て萬世一系天皇の尊嚴神聖にして犯すべからざる由緣益々鞏固なる事を恐悅し奉る此の如く君民和輯上下信賴する二千六百年の史實は宇内

其比無きは勿論假りに社會の安寧民衆の最大幸福の爲めの最勝統制組織を理想考按するも到底有史前以來自然整齊の此の御國體に勝るものを理想し能はず。凡そ社會の安寧と民衆の最大福祉は實に此の如き家族的親和信賴の事實に依存す。此の有難き理想的國土に生を享けたる者は何の幸か之れに如かむや。皇室は子民の神髓なり、凝意なり、此故に我等は身を忘れ家を顧み

ず率先して皇室を擁護し祖國を衞るなり。此の天壤無窮の皇運と萬代不易の國民性が我が御國體の精華なり。

祖先奉仕　祖先に仕ふるには敬を第一とす、前に在ます御靈を日日禮拜して怠ることなし。

父母御他界に當りては敬虔斂葬し謹で御在世の德行を稱頌し家に傳へて永代尊重忘るゝこと莫し。

親族に對する儀禮は右に准じて唯だ次第あり。

處世　世路難に處して徒らに勞困すること莫し淳朴快濶歡喜して御活動連鎖機能たる本分を奉行せむと念願す

清淨活動　常に禮讃謝して一切思案行爲自ら中和統齊の

御道　に叶ふ交互扶持の働。

世上在來の信仰は多くは智性を敬禮するものと觀て敢て之れを尤めず、堪忍、仁愛、親切、以て　**阿吽阿**

の　**御道**　を廣く世界に傳へて悉皆同行遂に　**阿**

吽阿 に合ひ奉らむと念願す。

誠心此教を遵奉し上記の條項を能く體認し謹で **御慈悲** を仰ぎ奉る。

南無阿吽阿無阿吽南無阿吽阿。

俊

第八　遺囑

俊　七八歳の頃自分は人として安心し得る何の信念も無く寔に寂しく感じゐたりき。長ずるに及びてもこの寂しさは少しも去らぬのみならず更に自分は自己以外の世界に如何なる關係あり、如何なる境遇にあるかにつきて少しも知る所なきことが益々不安を深からしめぬ。爾來此最大事の眞諦を望みて一日も息むことなかりき、

然れども少時は人並に自律自助立身の術を主として學ぶ要あり、家を成して後は生事に忙はしくして冥想思索したり又は哲學宗教などを篤く研究する程の餘暇はなかりき、是を以て人生の第一義に關する學問上の見聞は實に一斑片鱗に過ぎざれば敢て諸宗教哲學を批判するにてはなけれども俊の知る限りに於ては彼れも此れも其觀察覺知の到る所阿吽阿に及ばざること遙に遠

しと思はる。蓋し妙の幽玄なるに驚嘆し其深遠なるに眩惑したるに因るか孰れも種々想像を逞しくして其多くは空想盲斷に陷り甚しきは學知の全く容れざることを妄信するものあり。之れに加ふるに原來絶對を言明するに不適當の言語文書を用ひ甲乙丙丁論註疏說し卻つて之れが爲めに一層晦澁混雜を累ね益々人爲の迷宮に深入して自失混淆に沈淪せるもの多しと思はる。然

れども何れの教も本來教祖の智性動機に緣りて成る言行なるが故に其修身處世に關する指示は洵に萬世の規範とするに足るもの多し。故に是等教に與する輩は事に對し機に臨み愼みて思ひ明らかに辨へ中和統齊の**御道**に協ふやう之れを時中活用すれば益を得ること甚だ多かるべし。然れども是等の教を學ぶ者往々之れを以て惟だ修身處世の外面的模範と心得只管耳に聽

き目に視る形式の上の練習に止まる者あり、學業成りて既に二次性と成りたる者は幸なり、其とても其由つて來る所の本原を覺る者の安樂なるには如かず、況んや其れにだにも及ばざる多くの輩に於ておや。大道廢れて仁義有りの嘆ある所以も亦此にあるか。

此の如く不安の五十餘年速くも過ぎて俊が年六十歳を超えし頃幸に御引導に由りて遙に**覺**を窺ひ得たり、

年方に六十八歳昭和四年十一月十八日の曉豁然　**覺**に邇づき得さしめ給へり、俊の歡喜は言語文字の能く表はし得る所にあらず。嗚呼有難き哉、勿體なき哉。

智　個性不二なるが故に吾曹個性が　**根本智**　を自覺するは固より當然なるにも拘らず覺る者の少なきは唯だ是れ個性が其箇々欲に執着するが故に種々境に或は凝滯し或は輪廻轉生し煩悶苦惱して智性の明らかならざるが故なり。

苦悶の境界を解脱し安樂平和の境に到るは唯だ其れ箇々偏見執着を捨離して智性明らかに稟性至善の中和の

御道　に準由して清淨活動し遂に　**阿吽阿**　に合ひ奉る一途あるのみ。

個性は御活動の連鎖なるが故に其性能固より神聖なるも箇々欲智性に剋つときは我欲相應の境に留滯して進展

向上を障礙し連鎖機能本分の圓滑なる活動を弛緩す。

箇々欲中和にして智性允に明らかなれば有情を愛し非情を護り交互扶持して同根一體　**智**　個性不二を實證すること例へば太陽光線の分れては七色となり合すれば無色なるが如くあるべし、若し七色私に其本來の濃淡を損益することあらむか安んぞ和して復た無色となることあらむや。人も亦所謂心の欲する所に從ひて

矩を踰へざるは七情誠に中和なる聖者なり、智性の明らかなる個性卽ち　**全一**　の部分的顯現に庶幾しと謂ふべし。

種々境に流轉する個性も時に無我境に住して箇々欲誠に中和に智性允に明らかなるに當りて　**妙覺**　することあるべし。是れ卽ち　**根本智**　なり、**御慈悲**　なり、**御引道**　なり、中和統齊の　**御道**　なり、

一切 **善藏** なり。

此の如く **御慈悲** は常に萬境に洽く一切を善に導きて息むことなければ個性は唯だ箇々偏見我執を捨て内に省れば正しき御導きは常に其所にありと知るべし。

此故に御導きに從ひて行へば必らず心に怡びありて身も優なり、之れに反して御導きに戻りて行へば心憂ひ

結ぼれて體も亦安らかにあり能はず。

凡そ善と云ひ惡と云ふは個性の思案行爲が **御道** に準由するや否やのことなり、**御道** に乖違することの小大が罪の輕重なり。總じて善なるもの惡なるものは **愛** の御導きと **御因果則** の齊へ給ふ所善なることが存立し惡なることが畢竟絶滅す。

所謂明德を明らかにすと云ひ、至善に止まると云ひ、六

度の行と云ひ、十字架を負ふと云ふこと皆な是れ中和統齊の **御道** に準由する德目なり。

抑も **愛** の御導きは超因果則の **妙** にして因果必然の運行を少しも妨ぐることなし、一切を相援け相濟ひて以て部分界萬有を導き向上せしめて遂には完全せしめ給ふ **御慈悲** なり。

然るに個性一般は **唯一御存在** の御特性を賦け

て狹義の箇々自由を有するに依りて多くは我欲にのみ執着すれども既に此教を聞きて善惡の分別を知る輩は謹で人道を實踐躬行し偏見我執を捨離して清淨活動して一切思案行爲内に省みて **御引導** に順ひ奉るべし、然る上は必らず智性明らかになり遂に **覺** を成就して **阿吽阿** に合ひ奉り圓滿歡喜して輪廻流轉の一切苦惱を脱離し現世安樂當來平和永久幸福を享く

べきこと必定なり疑ふこと勿れ。

凡そ個性は箇々欲に耽溺するの所以に念々相應の相を現はし相相應の境に或は凝滯し或は輪廻流轉すること洵に慨はしき極なり。今幸に遇ひ難き人界に生を享けたる輩は如何にも堅固に人道を實踐して此有難き正覺成就の當場を逸して復た人外に墮ちることなく更に一段の向上正覺成就を以て終生の念願とすべし。

五慾放縱罪障重く一旦人外に墮ちし極重惡人なりとても現世の終りに臨み誠に過去の惡業を悔ひて

南無阿吽南無阿吽南無阿吽阿 と一向念誦して眞實人道に由るべく一念發起すれば其一念相續して來世に延長し當來は復た人界に生を得て正しく人道を實踐し偏見我執を捨離して清淨活動し **覺** を成就して萬境該總の **阿吽阿** に合ひ奉り得る機會を授け

與へらるべし是れ寔に **阿吽阿** の **妙御慈悲**
の賜なり、必らず疑ふべからず、此大事世上罪障重き
人々片時も忘るゝことなく常に懺悔して後生善所と祈
りて不意臨終の用意あるべきなり。
人界とは其眷屬必らずしも人間たるに限らず人道に由る
もの、境遇なるが故に人間は勿論或は非人眷屬にても
あり得べし。

總て個性は其寄る所の境に依りて永久に存生す。
智性は常に **根本智** を自覺し靈界感應あるべきもの
なれども箇々欲之れを遮りて智性隱顯常ならず、然れ
ども一度び此教を聞く者偏見我執を捨離して允に誠に
箇々欲中和なれば必らず智性明らかに遂に **覺** を成
就して **阿吽阿** に合ひ奉るべきこと必定なり、拳
々服膺勉めよ兄弟姉妹毎朝夙に興き靜坐して禮讃謝し

祈禱して數百遍乃至數千遍

南無阿吽南無阿吽阿吽阿 と繰返し唱へ奉るべし而して常に此觀念に止住すべし。

靈界感應は全然超經驗にして智性直接の感應なり、箇々機能の關與する所にあらず、對象認識に於けるが如き機能に關係ある客觀類似のことは是れ皆な箇々妄想か否らざれば箇々機能に潛在する雜多なり、決して天

啓なりとか又は託宣なりなどと妄信すべからず。

認識は箇々機能との協作用に成る智性の對象直觀判斷なるが故に箇々機能の發育不足又は故障あるに因り或は現象觀察に數々隨起する錯覺に原因して誤謬認識に陷るは之れ當然の歸結なれば人たるものは體育知育に留意して身神諸機能の完全成長を圖り且つ諸科の學知を能く應用して一切經驗上の誤謬を匡正して普遍認識

を誤らず御因果則の脈絡條理を愼重に考按明辨し善因善果を成就して正しく人道を躬行し中和統齊の**御道**遵守に資すべし。

爾等吾が子孫爾等俊の跡を紹ぎ幸に**覺**を成就の上は清淨活動して智性明らかに御活動連鎖機能たる本分を歡喜奉行すべし、是れ寔に現世安樂當來平和永久幸福の御約束なり。翼くは爾等子孫緣ある同胞に此教を傳

へ自ら模範となりて他を導き圓滿歡喜を衆と共にすべし。

爾等子孫を輔佐して此教を廣く世界に布き傳ふること竝に此教を核心とする文化事業の作興を以て吾が同行の邇覺者に屬託す。

未だ覺に邇づき得ずして他人の援助を賴みに生活の手段として布教傳導するが如きは其言行に誠實の根柢な

ければ知るや識らずに他を惑はし教旨を擾す虞あれば
布教傳道は自給自辨する先覺者の奮つて之れに當らむ
ことを奬む。
然れども爾等子孫の統裁下に有給庶務員を任用するは
敢て妨げず。
敬で　阿吽阿教　布教傳道一切を主として爾等吾が子
孫に付屬す。

南無阿吽南無阿吽南無阿吽阿。

昭和五年三月十日記　　俊

昭和七年六月十一日印刷
昭和七年六月十五日發行

著者　東京市芝區伊皿子町二十六番地　冨岡俊次郎

發行者　東京市芝區伊皿子町二十六番地　冨岡俊次郎

印刷所　東京市小石川區久堅町百八番地　共同印刷株式會社

67
437

67
437

終